
キヤノン株式会社

2021年第2四半期 決算説明会

2021年7月28日

代表取締役副社長 CFO 田中 稔三

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2021年2Q実績	P 2~4
■ 2021年最新見通し	P 5~8
■ ビジネスユニット別詳細 (2021年2Q実績/2021年最新見通し)	P 9~16
■ 財務状況	P 17~18
■ サステナビリティへの取り組み	P 19
■ グローバル優良企業グループ構想Phase VI	P 20
■ 参考資料	P 21~26

2021年 2Q実績のポイント

【外部環境】

- 一部の地域で感染再拡大
- ワクチン接種が加速し、
世界経済は回復基調を辿る

【当社業績】

- 計画を上回り、営業利益は
三四半期連続700億円台
- 事業構造の転換により、ウイズ
コロナでも安定した利益を創出

(億円)	2021年 2Q実績	2020年 2Q実績	対前年
売上高	8,819	6,733	+31.0%
売上総利益 (売上総利益率)	4,176 47.4%	2,753 40.9%	+51.7%
経費 (経費率)	3,403 38.6%	2,931 43.5%	
営業利益 (営業利益率)	773 8.8%	-178 -2.6%	-
税引前利益	858	-72	-
純利益 (純利益率)	611 6.9%	-88 -1.3%	-
USD	109.48	107.59	
EURO	131.94	118.66	

第2四半期については、日本や東南アジアなど一部の地域では、新型コロナウイルスの感染再拡大が見られたものの、先進国を中心にワクチン接種が加速したこともあり、世界経済は総じて回復基調を辿りました。

当社についても、半導体不足による生産影響を最小限に留め、カメラやインクジェットプリンターなどの販売が好調に推移した結果、売上については対前年プラス31%の8,819億円となりました。営業利益と純利益についてはそれぞれ773億円、611億円となり、4月時点での見通しを大きく上回るとともに、第1四半期と比べても収益性が改善しました。

営業利益は三四半期連続で700億円を超え、上期累計の純利益についても1,000億円台となり、コロナの底であった昨年と比べて業績は急回復しております。

これは当社がこれまで進めてきた、事業ポートフォリオの転換や構造改革の成果が、ウイズコロナの新しい社会のもとで現れたものであると考えております。

2021年 ビジネスユニット別PL(2Q)

- 全ビジネスユニット増収
- プリンティング、イメージング、インダストリアルその他は2桁の利益率

(億円)		2021年 2Q実績	2020年 2Q実績	対前年
プリンティング	売上高	4,896	3,934	+24.5%
	営業利益	638	181	+252.3%
	(%)	(13.0%)	(4.6%)	
イメージング	売上高	1,698	955	+77.8%
	営業利益	209	-208	-
	(%)	(12.3%)	(-21.8%)	
メディカル	売上高	1,118	1,019	+9.7%
	営業利益	37	59	-37.7%
	(%)	(3.3%)	(5.8%)	
インダストリアル その他	売上高	1,381	995	+38.7%
	営業利益	155	18	+744.4%
	(%)	(11.2%)	(1.8%)	
全社消去	売上高	-274	-170	-
	営業利益	-266	-228	-
連結合計	売上高	8,819	6,733	+31.0%
	営業利益	773	-178	-
	(%)	(8.8%)	(-2.6%)	

プリンティングは、オフィス向けについてはプリントボリュームの回復がやや遅れておりますが、本体は概ね計画通りの販売となり、コンシューマー向けについては在宅需要が引き続き堅調に推移したことから、対前年増収増益となり、利益率は13%と2桁を維持しました。

イメージングは、競争力のあるフルサイズミラーレス本体と拡充されたレンズのラインアップが相乗効果を生み出しており、カメラの販売は計画を上回って好調に推移しました。また、プロダクトミックスの改善と効率性を重視した販促活動などによって12.3%の利益率となり、収益の安定化が図られております。

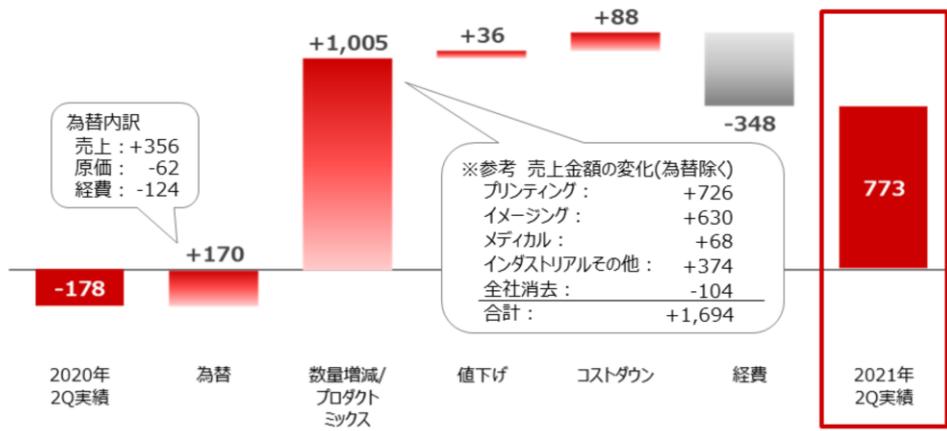
メディカルについては、日本の補正予算による需要の押し上げ効果は一段落しましたが、市場は緩やかに回復に向かっていることから、売上は前年を上回りました。利益面では、昨年見送った展示会への出展や開発などの活動を今年は予定通り実施したこともあり、減益となりました。

インダストリアルその他ですが、半導体露光装置については引き続き旺盛な設備投資需要に対応するとともに、昨年停滞していたFPD露光装置の設置についても今年は計画通り進めることができたため、大幅な増収増益となりました。

2021年 営業利益分析(2Q)対前年

- 全ビジネスユニット数量増により利益増に貢献
- 販売、開発活動本格化により経費は増加

(億円)



「為替」は、円安の影響で営業利益170億円のプラスとなりました。

「数量増減」としては、昨年コロナ影響が大きかったプリンティングとイメージングを中心に、全ビジネスユニットで利益増に貢献しました。

「コストダウン」は、部品のコストアップの影響が出始めておりますが、イメージングのカメラを中心に、昨年と比べて工場稼働率が高まっていることなどにより、プラス88億円となりました。

「経費」については、昨年はコロナで活動が制限されて極めて低い水準でしたが、今年は第2四半期に入り、開発、販売活動が正常に戻りつつあることから、大きく増加しました。

2021年 最新見通しのポイント

【為替前提】

平均為替レート	21年下期	21年年間	21年下期の為替影響額 (1円の変動による影響)	
			売上	営業利益
USD/円	108.00円	107.92円	61億円	21億円
EUR/円	130.00円	129.95円	29億円	14億円

【外部環境】

- 世界経済は個人消費や設備投資需要を背景に高成長
- 半導体部品や物流の逼迫は引き続き厳しい状況

【2021年見通し】

- 下期は製品の安定供給に注力して堅調な需要に応え、
上期と同水準の業績を見込む
- 売上1,000億円、純利益610億円上方修正

5

今年の世界経済は、足元ではコロナ変異株の拡散も見られておりますが、ワクチン接種の加速により、昨年コロナにより大きく落ち込んだ個人消費や設備投資が増加することで、本格的な回復に向けた成長が見込まれております。

当社製品の市況についても、上期の堅調な需要が続くことに加え、出勤率の上昇により、遅れていたオフィスプリントの回復も進むと想定されます。一方、生産面では、半導体などの部品不足が懸念され、厳しい状況が続くと見込まれますが、開発から調達、生産、販売部門が一体となって製品の安定供給を目指します。

また、今後の為替レートについても1ドル105円から108円に、1ユーロ125円から130円へと現状の水準に見直し、下期も上期と同水準の業績が続くと見込まれることから、通期の業績見通しを売上で1,000億円、営業利益で850億円、純利益で610億円、それぞれ上方修正します。

2021年 全社PL(年間)

- 売上総利益率、経費率ともに前年から大きく改善
- 純利益は2,000億円を超える

(億円)	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
売上高	36,000	31,602	+13.9%	35,000	+1,000
売上総利益 (売上総利益率)	16,480 45.8%	13,759 43.5%	+19.8%	15,680 44.8%	+800
経費 (経費率)	13,650 37.9%	12,654 40.0%		13,700 39.1%	+50
営業利益 (営業利益率)	2,830 7.9%	1,105 3.5%	+156.0%	1,980 5.7%	+850
税引前利益	2,980	1,303	+128.7%	2,110	+870
純利益 (純利益率)	2,010 5.6%	833 2.6%	+141.2%	1,400 4.0%	+610
USD	107.92	106.68		105.26	
EURO	129.95	122.07		125.65	

売上は対前年プラス13.9%の3兆6,000億円、営業利益については、売上総利益率と経費率がともに大きく改善し、前年比2.6倍の2,830億円、純利益は、2.4倍の2,010億円となる見込みです。

2021年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 全ビジネスユニットの業績見通しを引き上げ
- プリンティングとイメージングは年間でも利益率2桁

(億円)		2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	20,045	18,044	+11.1%	19,548	+497
	営業利益 (%)	2,245 (11.2%)	1,471 (8.2%)	+52.6%	1,869 (9.6%)	+376
イメージング	売上高	6,634	5,413	+22.6%	6,173	+461
	営業利益 (%)	710 (10.7%)	57 (1.1%)	+1,139.1%	311 (5.0%)	+399
メディカル	売上高	4,713	4,361	+8.1%	4,616	+97
	営業利益 (%)	346 (7.3%)	252 (5.8%)	+37.1%	303 (6.6%)	+43
インダストリアル その他	売上高	5,619	4,615	+21.7%	5,551	+68
	営業利益 (%)	389 (6.9%)	205 (4.4%)	+89.6%	377 (6.8%)	+12
全社消去	売上高	-1,011	-831	-	-888	-123
	営業利益	-860	-880	-	-880	+20
連結合計	売上高	36,000	31,602	+13.9%	35,000	+1,000
	営業利益 (%)	2,830 (7.9%)	1,105 (3.5%)	+156.0%	1,980 (5.7%)	+850

7

ビジネスユニット別の状況ですが、4月公表に引き続き、プリンティングとイメージングを中心に、4つのユニット全てで見通しを上方修正しております。

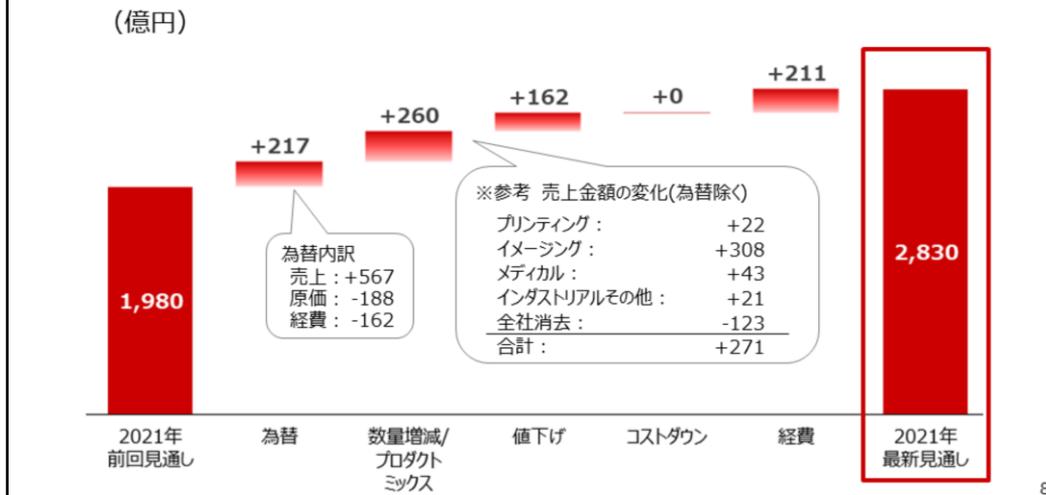
プリンティングはインクジェットプリンターの旺盛な在宅需要を背景に、イメージングはフルサイズミラーレスカメラの高い製品競争力を背景に、堅調な売上が継続する見通しです。製品の安定供給と経費の効率的な使用に努めることで、ともに年間で2桁の利益率を見込んでおります。

メディカルは、日本を中心に需要は強く、過去最高の7%を超える利益率を目指します。

インダストリアルその他については、顧客の旺盛な設備投資需要に対し、機器の設置を着実に進めることで増収増益を見込んでおります。

2021年 営業利益分析(年間)対前回

- 「為替」、「数量増減」、「値下げ」、「経費」で利益好転
- 「コストダウン」については、部品のコストアップ不可避も、固定費の見直しと生産性の改善で影響を抑制



「為替」については円安に見直すとともに、「数量増減」については、好調な販売状況を反映しました。

「値下げ」は、需給バランスを踏まえた価格対応を行うことで、162億円の好転を見込んでおります。

「コストダウン」については、部品のコストアップは避けられませんが、固定費の徹底的な見直しと生産性の改善により、その影響を抑えてまいります。

「経費」については、選択と集中を徹底し、数量増に伴う経費の増加を抑制することで、211億円の好転となる見込みです。

- 下期からオフィス再開が進み、サービスは年内にコロナ前の9割まで回復し、本体は中高速機新シリーズの拡販を図る

（億円）

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
オフィス	1,938	1,534	+26.3%	7,884	7,230	+9.0%	7,866	+18
プロシューマー	2,242	1,904	+17.7%	9,362	8,309	+12.7%	8,892	+470
プロダクション	716	496	+44.4%	2,799	2,505	+11.7%	2,790	+9
売上高計	4,896	3,934	+24.5%	20,045	18,044	+11.1%	19,548	+497
営業利益	638	181	+252.3%	2,245	1,471	+52.6%	1,869	+376
%	13.0%	4.6%		11.2%	8.2%		9.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
オフィス	+21.3%	+6.4%
プロシューマー	+12.9%	+10.1%
プロダクション	+35.3%	+8.5%
合計	+19.0%	+8.4%

■ 台数伸び率

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
オフィス複合機	+53%	+11%



『imageRUNNER ADVANCE DX』シリーズ
C5800

オフィス複合機市場は、第2四半期に入りコロナが再拡大したアジアでは市況が悪化したものの、それ以外の地域では本体、サービスともに緩やかな回復傾向にあり、下期も回復が進む見通しです。

当社の第2四半期の売上は、サービスはアジアでのプリントボリュームが減少し、それ以外の地域でも回復ペースが緩やかだったため、想定をわずかに下回りましたが、本体については、計画通りコロナ前の9割の水準に戻ってきております。

下期は、回復の遅れていた欧米においても、ワクチン接種の普及により、在宅勤務を奨励する政策が終了することに合わせ、多くの大企業が出社を再開する予定であり、出社人数の増加により、年内にはプリントボリュームもコロナ前の9割程度まで戻ると見ております。

このような中、当社では中高速機の新シリーズ「imageRUNNER ADVANCE DX C5800」を、今月日本で発売し、これにより全地域での市場導入を完了しております。プラットフォームを刷新し、静音性や省電力、メンテナンス作業負荷の軽減など、基本性能を強化したことが市場から評価されており、大企業でのプリント需要回復の機会を捉えて、拡販を図ってまいります。

- 2Qはインクジェットプリンターを中心にホーム向け製品の販売が好調
- 下期は在宅需要に加え、回復するオフィス向けの需要を取り込む

（億円）

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
オフィス	1,938	1,534	+26.3%	7,884	7,230	+9.0%	7,866	+18
プロシューマー	2,242	1,904	+17.7%	9,362	8,309	+12.7%	8,892	+470
プロダクション	716	496	+44.4%	2,799	2,505	+11.7%	2,790	+9
売上高計	4,896	3,934	+24.5%	20,045	18,044	+11.1%	19,548	+497
営業利益	638	181	+252.3%	2,245	1,471	+52.6%	1,869	+376
%	13.0%	4.6%		11.2%	8.2%		9.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
オフィス	+21.3%	+6.4%
プロシューマー	+12.9%	+10.1%
プロダクション	+35.3%	+8.5%
合計	+19.0%	+8.4%

■ 台数伸び率

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
LP	-12%	+8%
インクジェット	-12%	+1%



大容量インクモデル

『GX7030』

10

レーザープリンターとインクジェットプリンターのプロシューマー製品の市場は、ホーム向けについては先進国を中心に在宅勤務や在宅学習の高い需要が継続しております。オフィス向けについては、今後ワクチンの普及に伴い回復がさらに進む見通しです。

当社の第2四半期においては、ホーム向けが中心のインクジェットプリンターの販売は、在宅需要が引き続き旺盛であることから好調に推移しました。レーザープリンターについては、ロックダウンにより東南アジアの一部の工場が生産停止を余儀なくされ、本体の販売に影響が出たものの、消耗品はプリントボリュームが回復することを見越した購入の動きにより販売が伸長しました。

下期は、旺盛な在宅需要の継続に加え、オフィス向けの需要の回復が見込まれます。安定した製品供給に努め、ラインアップを拡充したインクジェットの大容量インクモデルや、コンパクトでありながら両面印刷などの機能を備えたレーザープリンターなどにより、これらの需要を取り込むことで、前回計画を上回る年間売上を目指してまいります。

プリンティング（プロダクション）

- 昨年発売した新製品が順調に販売台数を伸ばす
- 更なるラインアップ強化と新規ディーラーの活用により、売上回復が進む

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
オフィス	1,938	1,534	+26.3%	7,884	7,230	+9.0%	7,866	+18
プロシューマー	2,242	1,904	+17.7%	9,362	8,309	+12.7%	8,892	+470
プロダクション	716	496	+44.4%	2,799	2,505	+11.7%	2,790	+9
売上高計	4,896	3,934	+24.5%	20,045	18,044	+11.1%	19,548	+497
営業利益	638	181	+252.3%	2,245	1,471	+52.6%	1,869	+376
%	13.0%	4.6%		11.2%	8.2%		9.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
オフィス	+21.3%	+6.4%
プロシューマー	+12.9%	+10.1%
プロダクション	+35.3%	+8.5%
合計	+19.0%	+8.4%



高速カットシートインクジェットプリンター

『varioPRINT iX』



大判プリンター

『Colorado 1650』

11

2021年のプロダクション市場は、欧米で店舗や各種イベントの再開によりポスターやチラシなどの印刷需要が増えており、また下期から経済活動がより活発化し、プリントボリュームがさらに増えるため、着実に回復していくと見ています。

コロナからの市況の回復に合わせ、当社が昨年下半年に発売した連帳機「Prostream 1800」や、高速カットシートインクジェットプリンター「varioPRINT iXシリーズ」、大判プリンター「Colorado 1650」は、高い生産性と画質を両立している点が、顧客から高い評価を得ており、第2四半期でも順調に販売台数を伸ばしたことで、増収となりました。

今年に入ってから、新製品を順次発売してさらにラインアップを強化していることに加え、グラフィックアーツ向け大判プリンターの取り扱いディーラーを増やすことで、中小の印刷会社を中心に新たな顧客を獲得できており、下期はさらに売上の回復が進む見通しです。

- カメラの需要は堅調、市場見通しを600万台に引き上げ
- 「EOS R5/6」の販売は2Qも好調、プロダクトミックスが想定より改善
- ラインアップを強化したRFレンズを牽引役に、年間見通しを上方修正

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
カメラ	1,121	557	+101.2%	4,309	3,477	+23.9%	3,930	+379
ネットワークカメラ他	577	398	+45.0%	2,325	1,936	+20.1%	2,243	+82
売上高計	1,698	955	+77.8%	6,634	5,413	+22.6%	6,173	+461
営業利益	209	-208	-	710	57	+1,139.1%	311	+399
%	12.3%	-21.8%		10.7%	1.1%		5.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
カメラ	+88.2%	+18.8%
ネットワークカメラ他	+38.4%	+18.0%
合計	+67.4%	+18.5%

■ 台数伸び率(単位：万台)

	2021年2Q実績		2021年最新見通し	
	台数	伸び率	台数	伸び率
レンズ交換式	73	+47%	300	+9%



RFレンズ

12

カメラの需要は、米国をはじめとした個人消費の強さに加えて、コロナ禍での新たな時間の使い方として、カメラを趣味とし、映像表現にこだわる人々が増えていることで堅調に推移しており、今年の市場規模は前回から20万台増となる600万台を見込んでいます。

当社の第2四半期は、「EOS R5」と「EOS R6」の販売が引き続き好調に推移し、想定よりも売上全体に占める構成比率が上昇しております。

またカメラ本体だけでなく、RFレンズについても、特に「R5」「R6」の発売以降、増加したフルサイズミラーレスユーザーがレンズを買い求める動きが加速しており、一部製品では供給が追い付かない状況です。

このレンズへの強いニーズを捉えるべく、7月には、高画質と軽量さを両立した400mmと600mmの2本の超望遠レンズや、最大撮影倍率1.4倍を実現させたマクロレンズを新たにラインアップに加え、撮影領域をさらに広げております。現在22本を揃えるRFレンズは今後も拡充を続けることで、フルサイズミラーレスシステムを一層強化し、このカテゴリでのシェア向上を図ってまいります。

そして年間の見通しについては、堅調なカメラ本体の需要を受け、販売台数は前回から10万台増加の300万台とし、さらにレンズの販売も好調なことから、売上を上方修正します。併せて、効率的な経費の使用を継続することで、収益性も維持してまいります。

- ネットワークカメラ市場は2桁成長回帰が鮮明に
- 下期は開発投資も積極的に行い、成長を加速

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
カメラ	1,121	557	+101.2%	4,309	3,477	+23.9%	3,930	+379
ネットワークカメラ他	577	398	+45.0%	2,325	1,936	+20.1%	2,243	+82
売上高計	1,698	955	+77.8%	6,634	5,413	+22.6%	6,173	+461
営業利益	209	-208	-	710	57	+1,139.1%	311	+399
%	12.3%	-21.8%		10.7%	1.1%		5.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
カメラ	+88.2%	+18.8%
ネットワークカメラ他	+38.4%	+18.0%
合計	+67.4%	+18.5%

13

ネットワークカメラの市場は、第2四半期に入り、経済の正常化に伴って受注・設置が進み、本来の2桁成長への回帰がより鮮明になってきました。

当社についても、市場の回復を着実に捉えたことで、第2四半期の売上は、今年の第1四半期を大幅に超えました。

下期は、従来の監視分野だけでなく、コロナをきっかけとした非対面・非接触ソリューションの拡がりも捉えるべく、開発投資を積極的に行い、成長を加速させます。年間の見通しを前回から引き上げ対前年20%の増収とし、市場以上の成長を目指してまいります。

- 2Qは米国を中心に市場の回復が進み、ほぼ計画通りの実績
- 高価格帯の装置を中心に拡販に注力し、市場を上回る成長を目指す

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
売上高計	1,118	1,019	+9.7%	4,713	4,361	+8.1%	4,616	+97
営業利益	37	59	-37.7%	346	252	+37.1%	303	+43
%	3.3%	5.8%		7.3%	5.8%		6.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
合計	+6.6%	+6.2%



MRI



超音波診断装置

14

第2四半期のメディカルについては、国内の補正予算を活用した装置購入は、一段落したものの依然として需要は強く、また各地域で肺炎検査向け装置の売上が引き続き堅調に推移しました。さらにワクチン接種率の高い米国などを中心に医療機関のオペレーションが通常の状態に戻りつつあり、大型機器の据え付けが徐々に進んで、計画通り対前年で増収となりました。

下期は、ワクチン接種が進み病院がコロナ対応から通常の状態に近づくにつれ、予約外来や手術などが増加することが見込まれます。これに伴い、CTに加えてMRIや高機能の超音波診断装置などを中心に売上を伸ばしてまいります。当社は、体表に近い部分から体の深部まで、従来より広範囲に渡り高画質を実現したプレミアムクラスの超音波診断装置を5月に発売しており、市場の回復に合わせて高価格帯の画像診断装置の受注拡大を見込んでおります。また、販売面でも最重点市場である米国を中心に、高価格帯装置の主たるユーザーである大規模医療機関に対する営業活動を強化し、年間では事業全体で市場の成長を上回る増収を目指します。

インダストリアルその他（露光装置）

- 半導体露光装置は、販売台数見通しを前回計画からさらに引き上げ
- FPD露光装置は、渡航制約がある中でも計画通り進め17台を販売

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
露光装置	511	281	+81.9%	2,153	1,425	+51.1%	2,080	+73
産業機器	347	298	+16.1%	1,297	1,324	-2.0%	1,301	-4
その他	523	416	+25.7%	2,169	1,866	+16.2%	2,170	-1
売上高計	1,381	995	+38.7%	5,619	4,615	+21.7%	5,551	+68
営業利益	155	18	+744.4%	389	205	+89.6%	377	+12
%	11.2%	1.8%		6.9%	4.4%		6.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
露光装置	+79.7%	+50.3%
産業機器	+15.9%	-2.1%
合計	+37.6%	+20.6%

■ 露光装置台数 (単位: 台)

	2021年 2Q実績	2020年 2Q実績	2021年 最新見通し	2020年 実績
半導体	30	31	149	122
FPD	17	4	68	32



半導体露光装置
『FPA-6300ES6a』

15

2021年の半導体市場は、5G・IoTの普及によってデータセンターやスマートフォン、PC向けのメモリ・ロジック需要が増え、さらに、車載向けでは、パワーデバイスやセンサーなど多様なデバイスの需要が拡大することから、過去最高となる見通しです。

当社は、顧客が要望する基板のサイズや材質に合わせて装置をカスタマイズするなどきめ細やかな対応で販売台数を増やしており、年間の販売台数は前回計画の146台を上回る149台となる見通しです。中期的にも半導体メーカーの旺盛な投資意欲は続くと考えており、需要を確実に取り込むために生産能力を増強するなど将来を見据えた活動にも注力しています。

2021年のパネル市場は、ノートPC・タブレットなどのIT関連モニターや、大型テレビで液晶の需要が強く、またスマートフォンでは有機ELパネルを搭載した製品が着実に増えていることから、想定通り堅調に推移すると見えています。

当社のFPD露光装置も、安定した需要を見込んでおり、第2四半期ではキヤノングループ内で設置に必要な要員を確保し、コロナ禍で渡航に様々な制約がある中でも計画通り進めたことで、17台の販売を達成しました。今後は、設置作業者の教育によって現地化を加速させ、安定的に設置できる体制づくりにも取り組んでまいります。

■ 顧客の投資時期見直しにより、売上は前年を下回る見通し

(億円)

	2Q			年間				
	2021年 実績	2020年 実績	対前年	2021年 最新見通し	2020年 実績	対前年	2021年 前回見通し	対前回
露光装置	511	281	+81.9%	2,153	1,425	+51.1%	2,080	+73
産業機器	347	298	+16.1%	1,297	1,324	-2.0%	1,301	-4
その他	523	416	+25.7%	2,169	1,866	+16.2%	2,170	-1
売上高計	1,381	995	+38.7%	5,619	4,615	+21.7%	5,551	+68
営業利益	155	18	+744.4%	389	205	+89.6%	377	+12
%	11.2%	1.8%		6.9%	4.4%		6.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2021年 2Q実績	2021年 最新見通し
露光装置	+79.7%	+50.3%
産業機器	+15.9%	-2.1%
合計	+37.6%	+20.6%



有機EL蒸着装置

16

有機ELパネル市場は、需要が堅調なスマートフォン、テレビなどで有機ELパネルモデルの割合が増加しており、またノートPC、ゲーム機など新たな製品への展開により、今後も成長が見込まれます。

当社の売上は、一部顧客の新規の投資時期が見直されており、今年は前年をわずかに下回る見通しですが、テレビ向けなどの新たな需要を取りこむため、大型パネル向け装置の開発を加速させてまいります。

- 好調な販売などにより、6月末の商品在庫は低水準
- 下期は部品の逼迫懸念の中、製品の安定供給に注力

(金額：億円)

		2020年				2021年	
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末
プリンティング	金額	2,386	2,333	2,279	2,167	2,373	2,320
	日数	42	49	50	42	45	44
イメージング	金額	1,154	1,046	1,002	901	987	940
	日数	68	89	77	50	54	54
メディカル	金額	975	1,001	972	923	998	1,018
	日数	84	91	89	77	75	79
インダストリアル その他	金額	1,491	1,657	1,924	1,637	1,600	1,613
	日数	146	188	213	132	103	112
合計	金額	6,006	6,037	6,176	5,628	5,959	5,891
	日数	63	76	79	60	61	62

17

6月末の在庫は、商品を中心に3月末から68億円減少し5,891億円となりました。商品在庫については、計画を上回って販売が好調に推移したことに加え、コロナの再拡大を受けた東南アジアの一部の工場の生産停止や部品の供給制約などもあり、総じて低い水準となりました。

下期は世界的に旺盛な需要が続く半導体などの部品不足も予想され、厳しい調達環境が続くことが想定されますが、製品の安定供給を最優先にし、販売機会を着実に捉えてまいります。

キャッシュフロー(年間)

- フリーキャッシュフローは好調な業績により2,300億円まで回復
- 捻出したキャッシュで借入金の返済を進め財務体質を強化

(億円)	2021年 最新見通し	2021年 前回見通し	2020年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	4,300	4,000	3,338
投資活動によるキャッシュフロー	-2,000	-2,000	-1,554
フリーキャッシュフロー	2,300	2,000	1,784
財務活動によるキャッシュフロー	-2,457	-2,067	-1,834
為替変動影響	80	-10	-1
現預金の純増減額	-77	-77	-51
現預金の期末残高	4,000	4,000	4,077
手元回転月数	1.3	1.3	1.4
設備投資	1,900	1,900	1,617
償却費	2,300	2,300	2,278

18

純利益が前回見通しから610億円増加し、営業キャッシュフローは4,300億円となり、キャッシュを生み出す力も着実に回復してきております。設備投資は計画通り実行する前提で、フリーキャッシュフローは対前年を516億円上回る2,300億円を確保出来る見通しです。

手元資金を4,000億円確保しながら、利益改善により捻出したキャッシュで借入金の返済を早期に進め、財務体質の強化を図ってまいります。配当については、単年度の損益のみならず、中長期的な業績、資金繰り、および投資計画などを総合的に勘案し決定しますが、今年には既に公表している通り、前年から10円増額の年間90円とする予定です。

サステナビリティへの取り組み

■ サステナビリティ推進本部を発足し、SDGs達成に向けた活動を加速

共生

2008年～

2030年

2050年



昨年から、世界の国々が2050年までにCO2排出量をネットゼロとしていく姿勢を表明しており、SDGsをはじめとした様々な環境・社会課題の解決に向けて企業への期待が高まっています。

当社は、企業理念「共生」のもと、これまでグループ全体で環境・CSR活動に積極的に取り組んできました。特に、環境分野においては、2008年から、ライフサイクル全体で製品1台当たりのCO2排出量を毎年3%削減することを目標に活動しており、2020年までに累計で41.3%の改善を実現しました。

こうした取り組みを強化し、これまで以上にグローバル企業として責任を果たしていくために、5月1日付でサステナビリティ推進本部を新たに発足しました。まずは環境統括センターを中心に対応してきた気候変動や、資源循環といった環境問題について、本部として各製品事業と連携し、取り組みを加速していきます。さらに今後、サステナビリティ全体へ管轄領域を拡大して、SDGsの達成に貢献してまいります。

グローバル優良企業グループ構想Phase VI Canon

- 現行事業の収益安定と新規事業の成長が進展
- 5カ年計画（2025年）の目標達成に向け、順調なスタート



当社を取り巻く環境は、コロナ変異株の感染拡大や半導体不足などの懸念はあるものの、カメラやレーザープリンターなどの現行事業は市場縮小に底打ちが見え始め収益が安定してきており、新規事業である医療やネットワークカメラ、商業印刷、産業機器の成長が形となって現れてきています。今年度は5カ年計画「グローバル優良企業グループ構想Phase VI」の初年度であり、史上最高業績を目指す2025年に向けて成長軌道に乗せる重要な1年と捉えており、まずは順調なスタートが切れていると考えております。

參考資料

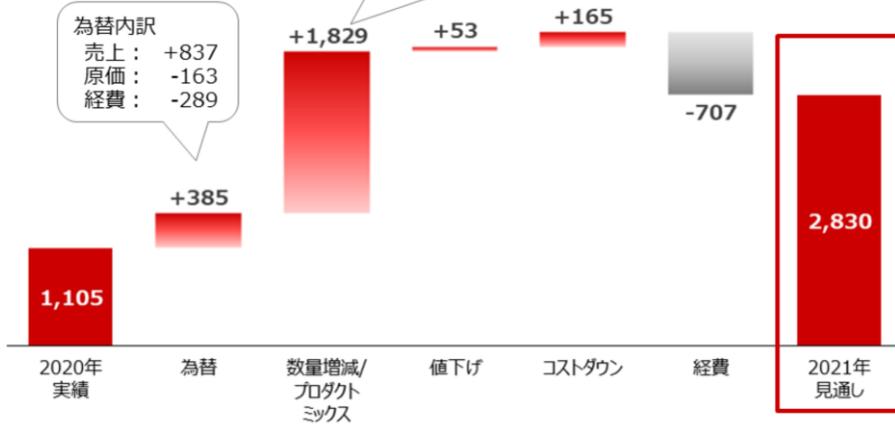
2021年 営業利益分析(年間)対前年

(億円)

※参考 売上金額の変化(為替除)

プリンティング:	+1,483
イメージング:	+982
メディカル:	+272
インダストリアルその他:	+951
全社消去:	-180
合計:	+3,508

為替内訳
 売上: +837
 原価: -163
 経費: -289



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2021年		2020年	
			2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	+47%	+20%	-38%	-21%
		ノンハード	+35%	+5%	-40%	-20%
	LC	ハード	+40%	+16%	-37%	-20%
		ノンハード	+30%	+2%	-38%	-20%
LP	円貨	ハード	+4%	+17%	-31%	-21%
		ノンハード	+41%	+14%	-26%	-19%
	LC	ハード	0%	+14%	-29%	-20%
		ノンハード	+36%	+13%	-25%	-18%
インクジェット	円貨	ハード	+24%	+16%	+5%	+15%
		ノンハード	-4%	+5%	+14%	+7%
	LC	ハード	+18%	+13%	+8%	+16%
		ノンハード	-9%	+1%	+17%	+8%
プロダクション	円貨	ハード	+52%	+17%	-41%	-22%
		ノンハード	+40%	+9%	-33%	-15%
	LC	ハード	+42%	+13%	-40%	-21%
		ノンハード	+32%	+6%	-31%	-14%

■ オフィス複合機 対前年売上伸び率（モノクロ/カラー別）

		2021年		2020年	
		2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
円貨	モノクロ	+35%	+8%	-39%	-22%
	カラー	+45%	+14%	-39%	-19%
LC	モノクロ	+29%	+5%	-38%	-22%
	カラー	+38%	+10%	-37%	-19%

■ オフィス/プロシューマー 製品別売上高

(億円)		2021年			2020年		
		1Q 実績	2Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	2Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,158	1,272	5,082	1,279	905	4,567
	オフィスその他	692	666	2,802	730	629	2,663
		1,850	1,938	7,884	2,009	1,534	7,230
プロシューマー	LP	1,369	1,414	5,819	1,412	1,113	5,044
	インクジェット	841	828	3,543	704	791	3,265
		2,210	2,242	9,362	2,116	1,904	8,309

■ オフィス複合機/LP カラー比率

		2021年		2020年	
		2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	売上高	60%	61%	58%	59%
	台数	61%	60%	59%	59%
LP	売上高	53%	52%	52%	51%
	台数	17%	20%	23%	21%

■ オフィス複合機/LP 台数伸び率（モノクロ/カラー別）

		2021年		2020年	
		2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	モノクロ	+48%	+9%	-38%	-18%
	カラー	+57%	+13%	-37%	+14%
LP	モノクロ	-5%	+8%	-33%	-17%
	カラー	-32%	+5%	-22%	-15%

■レンズ交換式カメラ比率 / コンパクトカメラ台数

	2021年		2020年	
	2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
レンズ交換式カメラ比率				
金額ベース ※	89%	90%	86%	87%
台数ベース	70%	71%	66%	65%
コンパクトカメラ台数 (万台)	31	125	26	148

※交換レンズも含む

■半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

	2021年		2020年	
	2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
KrF	9	39	4	25
i線	21	110	27	97
合計	30	149	31	122